

(26) 質問16 (事前調査では質問14)

【事前調査】

「通所介護カフェテリアプラン導入事業」の実施に伴い期待することはありますか。

()

【事後調査】

「通所介護カフェテリアプラン導入事業」を終えて、事業実施前に期待していたことについて何か感想はありますか。

()

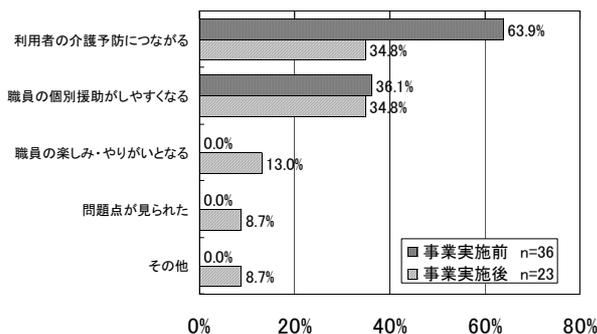
事前調査で自由に記述された内容を分類すると、次のとおりとなった。

1. 利用者の介護予防につながる。
 - ・利用者が楽しみ・生きがいを感じてもらう。
 - ・利用者が意欲的、自発的、積極的になる。
 - ・次々と目標を高く持つ。
 - ・個性が生かされる。
 - ・ADL、心身機能が向上する。
 - ・利用者同士が気軽に話ができるようになる。
 - ・社会とのつながりができればよい。
2. 職員の個別援助がしやすくなる。
 - ・個別援助技術が向上する。
 - ・利用者との距離が近くなる。
 - ・利用者のニーズを把握する、応える。
 - ・利用者の側面や残存機能確認できる。

事後調査で自由に記述された内容を分類すると、次のとおりとなった。

1. 利用者の介護予防につながった。
 - ・表情が明るくなり、積極性が見られるようになった。
 - ・学ぶことの楽しさを求めていることが分かった。
 - ・とてもよい雰囲気でのコミュニケーションがとれた。
 - ・選択できることがよい。
2. 職員の個別援助がしやすくなった。
 - ・個別ケアができ始めた。
 - ・集団レクの疑問が少し解けた
 - ・利用者の意外な一面が見られた。
 - ・利用者との会話など関わりが多くなった。
 - ・活動がまとまりやすく実施しやすくなった。
 - ・ボランティア導入により、視野が広がった。
3. 職員のやりがい・楽しみとなった。
 - ・利用者が家でもしてくれて職員のやりがいになった。
 - ・利用者と共に楽しく過ごせた。
4. 問題点が見られた。
 - ・利用者全員の期待通りに活動するのは難しい。
 - ・人手や費用がかかるのが問題。

職員質問16



複数に分類した回答がある。

本事業により、利用者の介護予防はもとより、職員が個別援助をしやすくなったことを実感するとともに、職員自身の楽しみ・やりがいとなる発見があったものと推察される。

(27) 質問17 (事前調査では質問15)

【事前調査】

「通所介護カフェテリアプラン導入事業」の実施に伴い不安なことはありますか。

()

【事後調査】

「通所介護カフェテリアプラン導入事業」を終えて、事業実施前に不安であったことについて何か感想はありますか。

()

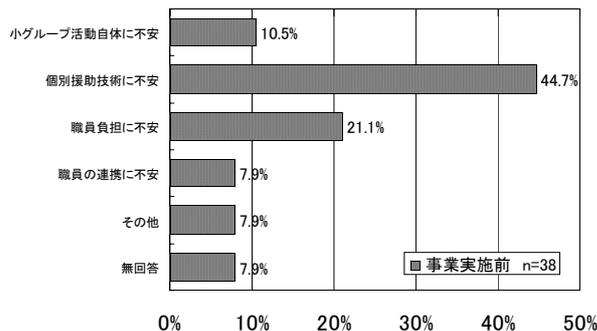
事前調査で自由に記述された内容を分類すると、次のとおりとなった。

1. 小グループ活動自体に不安
 - ・グループが変えられないので不満が出ないか。
 - ・独りぼっちの人が増えないか。
2. 個別援助技術に不安
 - ・利用者の期待に応えられるか。
 - ・一人ひとりを見ることが出来るか。
 - ・できない人のフォローができるか。
 - ・うまく進められるか。
 - ・計画・記録がうまくできるか。
3. 職員負担に不安
 - ・記録が増える。
 - ・時間や人数が足りない。
 - ・勉強が必要である。
4. 職員の連携に不安
 - ・統一的に対応できるか。
5. その他
 - ・経費が足りるか。
 - ・ボランティアの教育ができるか。

事後調査で自由に記述された内容を分類すると、次のとおりとなった。

1. 小グループ活動自体に不安があったがうまくできた。
 - ・利用者に事業が受け入れられた。
 - ・声掛けなどで一人きりにならないようにできた。
2. 個別援助技術に不安があったが、うまくできた。
 - ・利用者個別の把握ができた。
3. 職員負担に不安があったが、うまくいった。
 - ・人手が不安だったが、ボランティアできめ細かい対応ができた。
4. 不安な点が解消できなかった。
 - ・認知症等の対応が難しい。
 - ・意図的な援助に至らなかった。
 - ・個別の把握、記録が不十分だった。
 - ・記録で残業が増えた。
 - ・アルバイト全員に指示、指導ができなかった。

職員質問17



事前調査結果を分類すると、本事業に不安なこととしては、「個別援助技術に不安」が最も多く、次いで「職員負担の不安」が多かった。

事後調査では、不安な点についてうまくいったとする回答が多かったが、いくつか不安な点が残るとする回答が見られた。

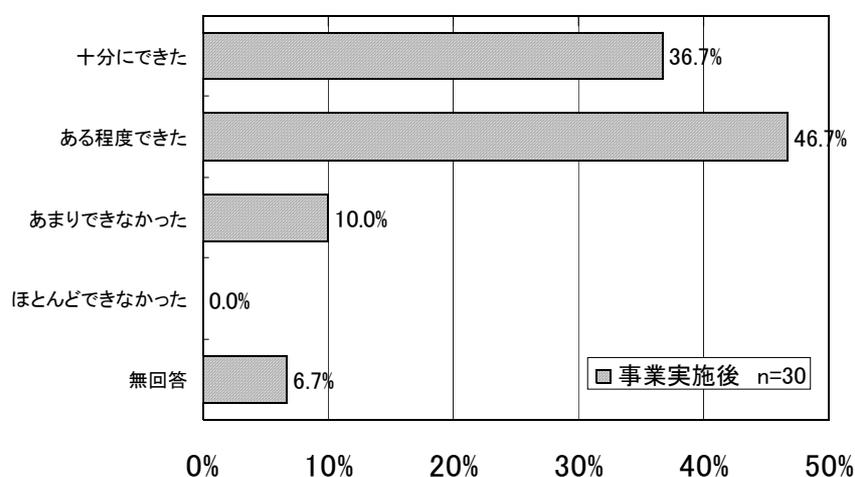
複数に分類した回答がある。

(28) 質問18 (事後調査のみ)

ボランティア員は、デイサービスセンターの利用者が自主的・能動的に楽しみややりがいを見つけていただくためのお手伝いできたと思いますか。

- 1 十分にできた
- 2 ある程度できた
- 3 あまりできなかった
- 4 ほとんどできなかった

職員質問18



「十分にできた」が36.7%、「十分にできた」と「ある程度できた」の合計が83.4%となった。

なお、同様の質問であるボランティア質問9では、「十分にできた」が14.3%、「十分にできた」と「ある程度できた」の合計が85.7%となった。

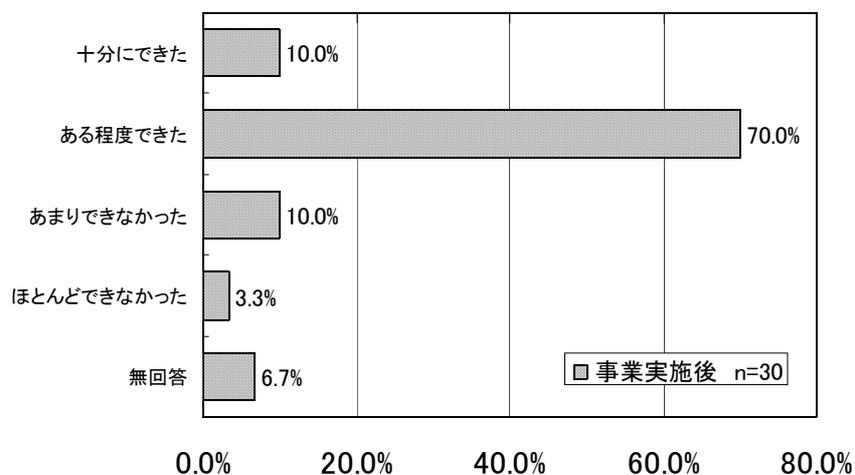
このことは、ボランティア自身が考える以上にボランティアによる個別援助の手伝いは十分な効果があったものと推察される。

(29) 質問19 (事後調査のみ)

小グループ活動を行うに当たって、ボランティア員とうまく連携できましたか。

- 1 十分にできた
- 2 ある程度できた
- 3 あまりできなかった
- 4 ほとんどできなかった

職員質問19



「十分にできた」が10.0%、「十分にできた」と「ある程度できた」の合計が80.0%となった。

なお、同様の質問であるボランティア質問8では、「十分にできた」が28.6%、「十分にできた」と「ある程度できた」の合計が85.7%となった。

このことは、職員はボランティアとの連携をさらに強める必要があると考えているものと推察される。

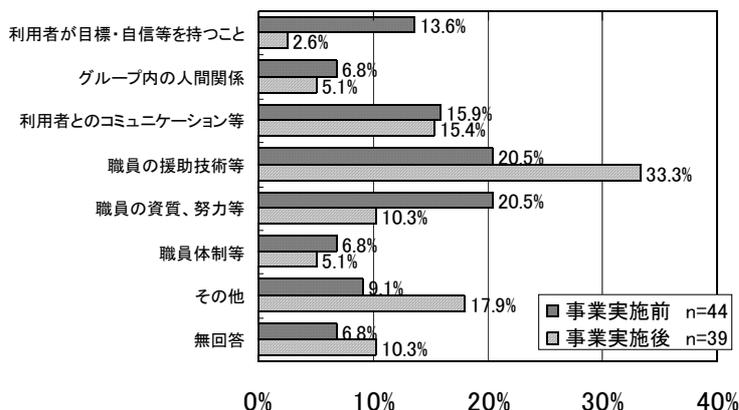
(30) 質問20 (事前調査では質問16)

利用者が楽しみ・やりがいを感じながら自主的・能動的に活動に取り組むようになるとともに、活動の継続性が高まるようにするためには、何が重要だと思いますか。

自由に記述された内容を次のとおり分類した。(複数に分類した回答がある。)

1. 利用者が目標・自信等を持つこと
「利用者が長期目標を持つ」「自信を持つ」「楽しみややりがいを感じるきっかけを持つ」「気楽にできること」
2. グループ内の人間関係
「雰囲気作り」「グループ内の人間関係」
3. 利用者とのコミュニケーション等
「利用者の信頼を得る」「自信を持ってもらえる声掛け」「一緒に考え、楽しむ」
4. 職員の援助技術等
事前調査：「計画、プログラム立案」「ニーズの把握」「ニーズにあった目標設定」
事後調査：「コミュニケーションを取りながら計画」「興味・自信の持てる活動内容の準備」「ニーズの把握」「ニーズにあった目標設定」
5. 職員の資質、努力等
6. 職員体制等
7. その他
「ボランティア、地域の参加」「小グループをもっと多岐にする」

職員質問20



事前調査結果を分類すると、「職員の援助技術等」及び「職員の資質、努力等」が最も多く、次いで「利用者とのコミュニケーション等」、「利用者が目標・自信等を持つこと」が多かった。

事後調査では、「職員の援助技術等」が増加し、「職員の資質、努力等」や「利用者が目標・自信等を持つこと」は減少した。

また、「職員の援助技術等」の具体的な内容についても、単なる「計画、プログラムの立案」ではなく、「コミュニケーションを取りながら計画」「興味・自信の持てる活動内容の準備」といった回答が見られた。

これらのことから、利用者の活動の自主性・能動性、継続性のためには、利用者の意識や漠然とした職員の資質、努力ではなく、利用者のニーズを踏まえた職員の援助技術が重要であるものと推察される。